

令和元年度 第2回上小地区小中学校教科用図書採択研究協議会
議 事 録

日 時 令和元年7月23日（火） 午後1時15分から

場 所 上田市教育委員会 第一会議室

出席者 小山会長、沓掛副会長、峯村委員、辰野委員、下村委員、
龍野委員、片田委員、横澤委員、酒井委員、神津委員、
教科責任者（調査研究委員長） 英語 関谷、国語・書写 川上、社会・地図 永井、
理科 神津、生活 竹前、音楽 吉本、図画工作 宮下、家庭 渡邊、
体育（保健） 松澤、算数 金澤、道徳 柳原
市側出席者（事務局） 学校教育課 緑川課長、横澤課長補佐、朝日担当幹

○会長 調査研究報告及び教科書の選定についてであります。各教科の調査研究委員長から調査表をもとに調査研究の結果報告をしていただき、それに対する質疑、討論を経た上で、調査研究委員会の選定した1種類の教科書について多数決により決定するという手順で進めます。

なお、可否同数の場合は、協議の経過を勘案した上で、議長が選定することとなりますので、ご承知おきください。

それでは、英語が教科として動き出しますので、英語を最初をお願いするという事で、調査研究委員長の英語の関係の先生にお願いしたいと思います。

○英語科調査研究委員長 それでは、よろしくお願いたします。今回小学校の英語が教科化になるということで、外国語科として今までの活動から大きく変わりました。4技能5領域である聞くこと、それから話すことのやりとり、話すことの発表、読むこと、書くことのうち、聞くことと話すことのやりとり、発表については、何々ができるようになるというふうに力を身につける目標へと変わりました。また、読むこと、書くことについては、新たに設定されたものであります。

現在授業では、文部科学省が作成した「We Can!」という教材を5、6年生で使っております。最初に、英語をよく聞くことから始めて、必要な文章の形、それから語彙などをゲーム、歌、チャンツなどの活動を通して、なれ親しみながら次第に発話を促し、単元の最後では自分のことや身の回りのことについて、英語を通して表現できるようにという、こういった形で作られております。こういったことを少しずつ積み重ねて練習していくということで、児童に無理がない範囲で練習ができるようにと工夫がされております。

さて、今回検定を通過していただいている7社の教科書を見ますと、どの教科書も「We Can!」と同じように英語を聞くことから始まり、ほかの話すこと、読むこと、書くことへつなげていって、

4技能5領域についてつながるようにつくられております。そういったことで、単元の流れについてはどの会社も統一されてつくられているというふうに感じました。

今回、委員会のほうでは、子供にとって学びやすい、あるいは学びたくなる教材、あるいは授業をする先生方から見て授業がしやすい、イメージしやすい教材、教科書になっているかということに柱を置いて検討してまいりました。その結果、選定理由書にありますように、英語については東京書籍の「NEW HORIZON Elementary English Course」の5と6、それと「Picture Dictionary」を選定いたしました。

では、これからその理由について幾つか項目に沿って説明をさせていただきます。まず、調査表の2の(2)でありますけれども、2の(2)は、互いの考えや気持ちを伝え合うなど言語活動が展開されるよう内容構成の配慮がされているかという部分であります。この教科書では、既習事項をもとにコミュニケーション活動、言語活動を行う「Enjoy Communication」というページがあります。ここではステップで方法を細かく示しております。例えばやりとり、人と会話をやりとりする例文を示して、まず見通しを持たせているということ。それから、文の中でハイライト、色を変えている部分の単語を入れかえると自分なりの表現ができる。自分の英語がしゃべれるようになるというようなことで配慮されているというふうに感じました。

また、5年生では、英文を書いて話すという、そういったことの用意をしてありませんので、例に示してあることを考えるときのよりどころとして使うことができるというふうに感じました。

また、6年生では、自分の表現を英文で書きますけれども、小学校の英語で書くというときには、見本を見て書き写すということが目標になりますので、例文を写して、先ほど申し上げたハイライトで色が変わっているところの単語を入れかえるということで自分の表現を書き写せるというふうになっております。

また、東京書籍には、「Picture Dictionary」がついています。これについてはまた後ほど説明をさせていただきます。

また、実際に会話のやりとりをするときには、何ができたのかということをチェックする欄がついています。フローチャートで示して会話の流れを確認できるようになっているので、子供にも使いやすいというふうに感じます。

さらに、幾つか単元を終えると、「Check Your Steps」というページがあります。ここでは各単元で言語活動を行うときにつくるカード、自分なりの作品をまとめて張りつけるページになっています。幾つか自分のつくった作品を見ながら復習ができるということ、あるいは自分が英語が少しできるようになった、話せるようになったというふうに分の成長を見返すことができるというようなこと、それから幾つかの単元で身につけた表現を使って、さらに自分を表現する活動を試みようという、こういった構成になっております。子供たちが言語活動をするときにできるだけまずきがなく、自分なりの表現を見つけて追究ができるように配慮されている教科書であるというこ

とを感じました。

続いて、2の(3)です。興味・関心、学習意欲を喚起し、主体的・対話的な学習を促す工夫がされているかということでもあります。東京書籍については、各単元の最後のページに他教科と関連した内容を多く取り上げて、興味・関心を引き出す工夫をしています。

また、東京書籍の教科書には、2年間分の単元配列を非常に工夫してあると感じました。例えば5年生の場合は、身の回りのことから始まり、友達のこと、それから地域のこと、さらに日本のことを知り、表現をするようになっております。6年生になりますと、今度は世界の国々のことを取り上げて、さらに自分と世界がどのようにつながっているのか、あるいは今世界でどのような問題や課題があるのかといったことまで話題として取り上げ、英語という言葉を通して世界の文化や課題を学ぶように単元が配列されております。

ここに教科書があるわけですが、小さくて見えないかと思うのですが、これが5年生の表紙なのですが、表紙を見ますと結構日本的なものがたくさん描かれております。凧だったり、それから羽子板だったり、独楽だったりといった日本の文化というのがどちらかというと中心になっております。この扉絵のところも3つありまして、1つ目は自分のこと、自分のことを紹介しよう。それから、2つ目のところは地域のことを紹介しよう。さらに、5年生の最後では日本のことを紹介しようというふう to それぞれ単元が分かれております。目次のところでは、最初のところを自分のことということで、友達との名刺交換、それから誕生日のこと、それから時間割のことを話題として挙げます。ユニットの4、5、6、地域のことというふうになると、自分の身の回りの人の紹介や自分のオリジナルタウンの紹介、それからふるさとの食べ物の紹介といったことがテーマに挙がります。そして、日本のこと、今度は自分たちの住んでいる日本という国を紹介しようということで、日本の地理、風土、文化について、それから日本の人物について紹介をする、このようになっています。

続いて、こちらが6年生の表紙ですが、表紙を見ますと、この後ろのほうに世界遺産の絵がたくさん出ております。6年生のテーマは、世界のことを知ろうということと、世界と自分のつながりについて考えようということになっております。目次を見ますと、最初のユニットのところは復習になっていますけれども、世界の国々を知ろうということで、自分についてのスピーチ、それから行ってみたい国といったことを中心に書かれております。ユニットの4、5、6になると、世界と日本のつながり、自分のつながりを考えようということで、夏休み、世界の夏休み、それからこの下は食物連鎖、それからこの下はオリジナル課題の発表というふうになっていますが、ユニットの5は食物連鎖ですとか生命のつながり、あるいは最近ではプラスチックのごみを動物等が食べてしまったということで、プラごみの問題なんか少し出てまいります。それから、ユニットの6になりますと、食料自給率の問題ですとか世界の食べ物といったところまで話題が及ぶようになっております。最後のところでは、マイベストメモリー、マイヒューチャー、マイドリームということで、中学校に向けて自分の夢を語ろうといった、こういった構成になっております。

このように自分の身の回りのことから始めて、6年の最後には世界のこと、それから中学校へ向けての夢を語るというように、それぞれの子供の発達段階に合った構成をしているというふうに思います。子供たちは、3年生から外国語活動ということで、外国語になれ親しむという活動をずっと続けてきています。3年生や4年生では、どちらかというとなら歌、それからゲーム、チャンツといった、そういった活動的なものをうんと好みます。そういった歌やゲームの楽しさを通して英語になれ親しんでいるということが主になってきますけれども、5年生、6年生と年代が上がっていきますと、ゲーム的な楽しさもありますけれども、もっと知的な楽しさ、もっと知りたいとか、あるいはもっと自分の知らないことを知ってみたいというような欲求も出てきます。ですので、東京書籍のこのHORIZONの教科書では、子供たちの視野が広がるような、そういった単元の構成をしているというふうに感じました。

○会長 ありがとうございます。

それでは、ただいま報告をいただきました英語につきまして協議をいただきたいというふうに思いますので、ご意見等ございましたらお出しただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○委員 今回コミュニケーションの基礎的な技能とか能力を大事にしているという評価の観点から、なぜ東京書籍を選んだかという理由も、一発目にコミュニケーションのことを言われているのだよね。

○英語科調査研究委員長 3番の(4)に三省堂にも二重丸がついておりますけれども、三省堂のところはプレゼンテーションという一番単元の終わりのところ、数単元終わったところでプレゼンテーションというところがありまして、そこはまず何をするのか、次に何をやるのかということがやはり段階的に示されております。そういったところで、コミュニケーション活動を既習表現の中、習った表現の中からどのように活動を進めたらよいかということを選んでやっていくというものについては、三省堂はわかりやすいかなということで二重丸をつけております。見方・考え方を働かせるという部分につきましては、東京書籍の方は、先ほども言いましたように文章を実際に示して、ここを変えるようにというふうに示してありますので、その部分については段階を踏んで易しいかと思えますけれども、三省堂の方はやり方だけを示して、後の英文は少し自分で考えようというふうな構成になっていますので、多少三省堂の方が難しいかと思えますけれども、三省堂の方が多少そういった面で英語の力がある子にとってはわかりやすい教材ではないかなということで二重丸をつけました。

それから、三省堂については、一度やってみたところで、自分がやったことを見直してもう一回やるというような構成になっていますので、一回で成功しなくてもやり直しができるというところで二重丸になっているということでもあります。

東京書籍についても、コミュニケーションの活動については先ほどお話をしたように、非常にわかりやすくなっているかとは思いますが、三省堂のところの方が使い勝手としてはすぐれているかなといったところは少々感じました。東京書籍についても、言語活動を行う際の主要場面、それから言語の働きについては十分配慮はされておりますので、決して悪くはないとは思いますが。

○委員 それぞれ各社ともみんなよくできていて、一定見たところではそんなに違いがなく、どれがいいのかなと本当に迷うぐらいだったのですけれども、ただ授業を誰が教えるのかと考えると、例えば英語専科がいる学校とか、ALTが毎時間必ず授業に担任についているという市町村があったり、あるいはほとんどALTは2週間に1回ぐらい、4時間のうち1時間ぐらいしかできないとか、あるいは半分、2時間のうち1時間という市町村とかで、やっぱり違ってくると思うのです。例えば三省堂なんかは、最初の各単元のところにこういうでっかい絵がついているのです。この絵は利用の仕方によってはすごく利用できるのですけれども、ALTとか、あるいは英語専科だったら利用できるのですけれども、担任は、ああ、絵があるね、で終わって、では次に進みましょうというふうな感じになってしまう。

そういうことを考えると、やっぱり基本的には担任が単独で、英語の専門でない学級担任がひとりでも教えられる教科書というような、そういうことをある程度前提にということを考えるのと、それからまたほかの教科書には、確かにDVDを使ってレッツウオッチというふうな形で、まず見てみましょう。テレビを使うことを前提にした教科書は、一番いきなり最初で見てみましょう。確かに目と耳から入れば便利だと思うし、すごく入り方としてはいいのだけれども、では本当に全部の教室にテレビがある、あるいはそこにパソコンなりDVDがくっついていないと、いきなり導入から見ることができるとかというような問題もあって、場合によっては、担任によっては一々どこからテレビを持ってきて、それでつないで、週2時間のためにそこでつないでいくというのはもう面倒だよ、カットなんていう、そういうのも出てくるとすると、このHORIZONの聞くことからスターティングアウトというふうに始まるというのは、担任にとっては入りやすいなという、そういう感じは私見てきていましたので、委員会の方で推薦した東京書籍でよろしいのではないかと私は感じていました。

○会長 私今ちょっと、調査委員長のお話で、前から気になっていたのだけれども、今回多分多くの学校で担任が授業をするという流れがだんだんふえてきているのだろうなと。そういうときに担任の先生が非常に扱いやすいと。子供にわからなければ一番いけないのだけれども、そのためにも担任が扱いやすい環境がやっぱり必要だろうと。そのための教科書でもあるとなれば、その辺は今お話を聞きした範囲のところでは十分クリアできているというふうに受けとめていいですか。

ほかにどうでしょう。いかがですか。

○委員 私もそれがちょっとひっかかったのです。というのは、自分が一番先に英語を勉強したときは、わかっていることを何で言うのだ、と、「これはペンです」なんていうのをね。それから始まったのですけれども、今はもっと子供たちが学習意欲を高めたい、高めていけるというのはさっきの説明でわかりましたけれども、例えば今、2番の(5)ですけれども、開隆堂とか二重丸だというけれども、例えばどんな内容で開隆堂はこれがよくて、というのがあったのですか。

○英語科調査研究委員長 挿絵や写真については委員会の中でちょっと意見がありまして、最終的に

7社あった中で、最終候補として残ったのは東京書籍と光村図書です。最終的にはその2つで最後考えたのですが、そのときに光村図書はどちらかというとな全体的に配色のトーンが抑え目といいですか、割と見やすく、それから表情もはっきりしているという意見が結構出ました。どちらかというとな余り派手な色は使わずに、抑え目の色でぱっと開いたときに見やすいですね。そういった話がありました。開隆堂も大体同じような理由です。東京書籍は、ちょっと見たときに、やはり光村と比べると少し配色がきついのではないかとというような、少し色が鮮やか過ぎるのではないかとというような話がありましたので、ちょっとその点では光村のほうが見やすいかな、ただ、このところはなかなか見やすい、見にくいということになると、人によってもいろいろ違うので難しいところかなと思いますが。

○会長 ほかにはいかがですか。

〔発言する者なし〕

○会長 2番の(1)、光村が二重丸で東京書籍が丸なのなのですが、ここはどうですか。

○英語科調査研究委員長 光村が二重丸にしている理由なのですが、今使っている「We Can!」というものがありますが、光村は大体その8割ぐらいが「We Can!」の内容を引き継いでいるような形になっているということで、今扱っているもの、先生方からすれば今扱っている「We Can!」から光村に変わっても、それほど抵抗感は、同じようなものということで少ないだろうというような、そういうことが一番の理由でちょっと光村のほうを二重丸にしてあるということであります。ですので、分量と発達段階に応じてというふうにあるのですが、分量という面では光村の方がやや優位であったかという、そういった考えであります。

○委員 総合的に判断して東京書籍になったから、今みたいに比べっこをやっていくと、みんな東書が二重丸になってしまうから、それはそれでいいと思う。

○委員 「Picture Dictionary」についてちょっと説明してください。

○英語科調査研究委員長 今回、東京書籍だけがこの「Picture Dictionary」というのを付けてあります。これは全部につくそうですが、ほかの会社では同じようにディクショナリー的なものは、この後ろに絵辞典ということで光村はここは絵辞典という名前でこういうふうになっています。「Picture Dictionary」がなぜここでいいかということなのですが、先ほども言いましたように、特に6年生になってくると、単語を書き写して自分の表現をつくるという場面が出てきますが、そのときに別冊になっていると、教科書もあけて、教科書の後ろのところ自分の表現を書くところがあるのですが、別冊なのでこういうふうにして広げておいて、こちらからこちらへ書き写すということが容易であるだろうということであります。1冊になっていると前を行ったり来たりしながら書かなければいけないので、それだけでもちょっと手間がかかるということがあるかと思えます。

それから、この「Picture Dictionary」は、ちゃんと、いわゆるペンマンの四

線、横線に載った、その上に単語が書かれていますので、書き写すときに四線を頼りにしながら書いていけば正しく書けるといったような工夫もあります。

それから、英語ではよくポインティングゲームというのをやります。言われた単語を指を指しなさいというゲームがあるのですが、ディクショナリーだけではなくて、あけておいてこの中から、例えば言われた単語を指してみましょ。指を指してみましょといったようなゲームにも使えるかというふうに思います。これはもうその名のとおり辞書ですので、中学に入りますとやはり辞書を使うということが出てくるかと思ひます。ですので、今の小学生のうちから少しずつ必要に応じて自分の言ひてみたい、使ひてみたいという言葉を絵を頼りに探すということ、辞書引きの初期の段階といいひますか、習慣化をつけられるということも期待できるかと思ひます。今回東京書籍だけがこれをつけているのですが、自分なりの表現を自分で探すということについてはすぐれているものかなということを感じました。

○会長 2冊になっているから特別重いと、そういうことも関係ないよね。

○英語科調査研究委員長 はい。これしか厚さがないので、全く重さについては問題がないというふうに思ひます。

○会長 ほかにいかがですか。

〔発言する者なし〕

○会長 よろしいですかね。

それでは、これから選定に入りますけれども、賛成をいただく場合は挙手ということになっておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、英語については先ほどご説明いただきました東京書籍の教科書を選定するということがよろしいでしょうか。よろしければ挙手をいただきたいと思ひます。

〔挙手全員〕

○会長 ありがとうございます。全員手を挙げていただきました。賛成多数ということで、英語につきましては東京書籍の教科書を選定するということがお願ひいたします。ありがとうございます。

○会長 それでは、今度は国語と書写のほうをお願ひしたいと思ひますけれども、よろしいでしょうか。では、説明をお願ひいたします。

○国語科調査研究委員長 お願ひいたします。国語の教科書の方からお願ひいたします。

委員会では、光村図書を選択を考えました。理由ですけれども、4社の教科書を見たときに、教育出版社、消去法というか、候補をだんだん絞っていく方法で選択いたしましたので、その経緯でお話しさせていただきたいと思ひますけれども、教育出版は手がかりとなるヒントが大変多く書かれていました。国語が苦手な児童にとっては、それが大きな手がかりになると思われましたけれども、余りにも手がかりとなるヒントが多過ぎて、叙述に戻らずに子供たちがそこに着目して学習を進めてい

くようになるのではないかということを考えて、余りよくないというか、候補から少し外す方向で最初に検討を行いました。

学校図書については、文字の大きさ、行間等、大変見やすい教科書になっておりましたが、特に高学年の説明文において、内容が難解だと思われるもの、構成についても少し児童の学年、発達段階に不適切、少し難しさを感じたので、見やすさはよかったわけですが、選定からは候補として取り除いています。

最後、光村図書と東京書籍で検討を行いました。光村図書を選択した理由ですが、挿絵、図案の絵が大変明るく、美しかった。そこが東京書籍と比べて違った点であります。また、四季の言葉というのが3年生以上から出てくるわけですが、春、夏、秋、冬、4つの季節をそれぞれ4回に分けて扱っているのは光村図書だけでした。そういった五感であったり、語彙を豊かにするイメージと結び合わせてということを大切に考えているところも評価したいと我々が考えたところであります。

もう一つ、大きな他社との違いが、各単元、各読む、話す、聞くの中で、光村図書はこういうふうにやってみようという学習の流れが大変豊富でした。それは全てをやろうとすると大変時間数も押しっぱいになってしまうのですが、その中から、児童の感想や気づき、子供と授業者が選択して授業をつくっていくということを大事にした構成であるというふうに判断して、そのことを重視いたしました。東京書籍、そのほかは、一つの単元に対してこれを勉強しようという狙いが定まっていて、それに対する手だてが大変明確に一つの方法が示されています。それにのっとって学習をしていくと、確かにその力がついていくのだろうというふうに思われたのですが、画一的になってしまって、ほかの方法は、教科書のもの、文章の後ろのやってみようというところにはっきり書かれているので、やはり子供たちも先生方もそれにとらわれて、それ以外の学習の展開が難しいのではないかという理由で光村図書を推薦したいと考えました。

国語については以上です。

○会長 東京書籍、光村が最後に2つ残ってこうやって研究して、今先生が発言してくれたようなことで光村ですよというふうになるのかな。ちょっとその辺について何かもし研究委員会の方で何か出していたら。

○国語科調査研究委員長 狙いを明確にするという指導をつける、国語の力をつけていくときにとっても大切だということは委員の中で話題となりました。光村図書の幅のある指導がよいのか、それともこの方法でこの力をつけるという東京書籍の指導法がよいのかということも2回にわたり委員の中で検討を行いました。最終的に我々の意見としては、やはり教科書に載っている文章は、教材であって、それを教えるのではなく、それを材料にどんな力をつけていくかということをやったり我々教師も学んでいかなければいけないし、子供たちとつくっていく幅というか、ゆとり、選択の幅は残しておきたいということで、光村図書を推しています。

3番の(6)の観点が明確になるように工夫されているかという点は、光村図書は、まとめや評価に向かう観点は絞られているのですけれども、それに向かう方法が複数示されていて、それをよい方向として授業の中で使っていくというか、一つの道筋で考えていくのではなくて、それぞれの教室の子供たちと先生方が少し選択の幅のある学習が展開できるようにできる教科書ということで、光村図書を推薦したいと思います。

○委員 前回の学習指導要領から大切にされているのが言語活動の充実ということで、これは目的を明確にして子供たちに言葉を通した活動をさせて、確かな言葉の力をつけましょうというのが前回も今回も統一した大きな国語科の目標だと思います。そうしたときに、東京書籍の場合は、言語活動というのは、例えば話し合うだったら話し合う、パネルディスカッション1個に決めてしまう傾向があるのですけれども、光村はどちらかというと、子供たちの実態に応じてパネルディスカッションもあるよ、討論会もあるよ、シンポジウムもあるよと、いろんな形態を示しています。ですから、子供たちの実態に応じて言語活動が選べる分、最後の評価の部分も幾つか評価の項目が出てこざるを得ない。だから、ここにあるように、いわゆる書かれている課題項目が多くて課題を絞り込まないと振り返りが難しいと。これ全部の課題について丸、丸、丸、丸とやるととても難しくなるのですけれども、自分たちの学級では今こういう方法で言語活動をやっているから、この部分についてクリアできたのだという、一つ一つをチェックするという意味ではなくて、そういう使い方をしていくとこれは、項目は確かに多いのですけれども、いわゆる子供たちの実態に合わせた言語活動に即して評価がつけられているという面でいくと、私はいいのかなという判断をしています。

○会長 幾つかあるけれども、その中の選択したものから取り組んで評価をそれに結びつけば、特別な大きな問題はないだろうということだね。

○委員 実際に各教室で授業をされているのを拝見する機会があるのですけれども、そういうときにもやはり最後の部分のところが幾つか項目があるので、その中で全部は各クラスやっていませんね。やっぱり実態に合わせてということだと、選択の幅があって扱いやすいところだと、工夫ができる余地があるということを思います。

○会長 それでは、すみません。ここで、国語につきまして、光村図書の教科書を選定するということがよろしいでしょうか。よろしければ挙手をお願いしたいのですけれども。

〔挙手全員〕

○会長 では、全員挙手をしていただきましたので、国語の方については光村図書の教科書を選定するということがよろしく願いいたします。

では、引き続いて書写に移らせていただきます。お願いいたします。

○国語科調査研究委員長 よろしく申し上げます。

書写も同じく光村図書の書写の教科書を選択させていただきました。光村の教科書がほかの教科書に対して大変ポイントが高く的確に、端的に記されていたという点が一番大きかったです。扱ってい

る文字も4年生の初めは漢字1文字であって、だんだんと2文字になっていったりというふうに、発達段階に応じて段階を追った指導がされているということ。それから、点画についても1年生から、毛筆でいくと3年生から6年生まで細かく段階を踏んでいる。1つの文字の中でこの点画、次の文字を使ってこの点画というふうに大変一つ一つ点画について扱っている点がいいというふうに思いました。

もう一つ、どの教科書も筆の穂先がどこを通っているかというのを薄墨を使って示されている視覚的な支援があるのですけれども、それが光村図書のみお手本のページと同じところに載ってしまって、子供たちが習字セットを開いて学習をしていくときに、すずり等ありますので、なかなか教科書を見開きで開くというのは難しく、お手本を恐らくこうやって折って使うかと思うのですが、小さいのですけれども、お手本と同じページに穂先がどこを通っているかということが書かれておりました。ほかの教科書も同じように薄墨を使って書かれているのですけれども、やはり実際に書くときにはこの形になってしまうと、その穂先を目で確認しながら意識してということは難しいかなというふうに思いましたので、そういった意味でも子供たちが自分たちで文字、何を意識してどこを気をつけて勉強していくのかということを追求するときに使いやすい教科書だというふうに判断をいたしました。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

今のご説明でいくと、光村だけが手本となる本の右のところに字体の中心になる線が確認できますよと。それは非常に効果があるのではないかという、そんなイメージですね。

どうでしょうか。書写についてご意見、ご質問、いかがですか。

何か書写で子供たちが上手になる。例えば1時間目、2時間目、3時間目と積み上げていったときに、何かその辺のポイントになるところというのは、教科書からというよりは、練習を重ねなければだめですよということですか。

○国語科調査研究委員長 私も今回しっかり各教科書を読ませていただいて、書写が習字、作品をつくるということよりも、毛筆を使いながら硬筆の筆遣いであったり、そういうことを意識するための毛筆という位置づけになっている。どの社もそうだということが一番に学びました。ですので、毛筆を扱っているのですけれども、その後に鉛筆で書いてみるというようなページがついていたり、それを例えばほかの教科、総合や社会でつくる新聞づくりに生かす、ポスターに生かす、というところにとっても今回の教科書は色濃くつながっていました。光村図書は、各学年の国語の教科書と連動する形で、レポートを書こうという書く単位と、書写のレポートを書くをリンクするような形で配置されているところも大変使いやすいなというふうに感じました。

○会長 ということでございます。よろしいですね。何かご意見やご質問ございますか。

○委員 今お話あったとおり、教科書とセットでないと非常に使いにくいのです。なので教科書が決まると書写もとなってしまうと思います。同じ単元の、違ってしまうと習う字が違ったりとか、いろ

いろいろありますので不便です。

○会長 それでは、書写にかかわりまして、光村の教科書を選定するということがよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願いいただきたいと思いますが。

〔挙手全員〕

○会長 では、全員挙手をいただきました。ありがとうございます。

では、書写の方は光村の教科書を選定ということになりました。

○会長 それでは、今度は社会科の方に移らせていただきます。

社会科と地図でありますけれども、よろしくお願いたします。調査研究委員長の方から報告をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

○社会科調査研究委員長 よろしくお願いたします。

まず、教科書の方をお願いします。教科書は、東京書籍と教育出版、それから日本文教出版、3社の中から検討させていただき、東京書籍の「新しい教科書」が最適ではないかということで選ばせていただきました。

理由ですが、全般的に問題解決的な学習を通して、よりよい社会づくりに参画、貢献しようとする意欲や態度が育てられるように配慮され、作成されているというのが全体的な印象です。細かく見ていくと、今度の新CSで主体的・対話的で深い学びということが打ち出されておりますが、社会科においても社会的事象の相互の関連や意味を多角的に考え、選択・判断したことを適切に表現できるよう学習場面の構成が東京書籍は非常に配慮されていると捉えております。また、何を学ぶかではなくて、学び方、どのように学ぶかということも大変重視されております。東京書籍の方は、全小単元のまとめる場面では、文章でまとめる、発表する、話し合うなどの言語活動が重視されており、習得した知識を定着させ、思考力、判断力、表現力を育てるように工夫されております。社会科を苦手とする教員がいた場合、単元の最後がこのような構成になっていた場合、教科書に沿ってやっていると、単元の終末でまとめる活動ができるということで、大変工夫されている構成だと思います。

また、社会科は教科書以外にも資料集等を併用される教師が大変多いのですが、東京書籍の資料、写真や挿絵、グラフなど、大変大きく、見開きで並べて提示してあり、割りつけの工夫が大変素晴らしいです。もちろん資料集の方が、場合によっては大きくてわかりやすい場合もあるのですが、それがほかの会社に比べて東京書籍を推していける大きな理由だと思います。もちろん3、4年の方では、地域教材として「わたしたちの上田市」や「のびゆく郷土」なども使うわけですが、東京書籍の資料提示の割付は大変見やすいです。

また、地域によっては、教科書に掲載されている題材を使えないというような場合もあるのですが、主教材の代替や補助教材について、東京書籍は大変充実しておりまして、学校の実情、地域の実情によって選択して題材が選べる構成になっておりますので、指導計画も学校に合わせて十分作成できる

ように配慮されております。

このような理由により、我々、私を含めて5名の社会科調査研究委員会全員で、東京書籍の「新しい社会」を選定しました。

説明は以上です。

○会長 社会科の教科書でありますけれども、東京書籍でいかがでしょうかということでご説明をいただきました。ご意見、ご質問ございますか。

○委員 選定した理由の一番最初のところに問題解決的な学習を通してと書いてある。これは社会科の命だよ。そのことについて各社並べて◎、○がついているところの2番の(4)、3番の(2)、(3)のところは東書に◎がついていて、ここの関連性が冒頭の一文と非常に濃い関係になっていて、これは非常に説明に説得力があるなと思いました。

○会長 問題解決学習にかかわって、今ポイントになる部分をご説明していただきました。先生、3番の(4)の社会に見られる課題への配慮がされているかということ、されていないわけではないと思うのだけれども、たまたま東京書籍の方は○で、日文の方の関係が◎になっている。何かこの辺はどうなのでしょう。

○社会科調査研究委員長 東京書籍も自然災害やE S Dなど人権などの課題も挙げられてはいたのですが、教育出版の方では、例えば自然災害、人権、火山、あと日本文教の方でも非常にそういうところでは新しい取組というのがあったので、その点に関しては東京書籍が○、ほかは◎にしました。しかし、決して東京書籍も扱っていないというわけではないのですが調査委員の先生方の意見をまとめるとそのようにしました。

○委員 1つ質問させてください。「選択理由」のところの2つ目の黒ぼつところで、社会的事象の相互の関連や意味を多角的に考えてのこれが3番の(3)に当たるなと思って読めたのですが、選択・判断したことを適切に表現できるよう学習場面の構成が配慮されていると。ここの選択・判断したことが適切に表現できるというのは、どこを根拠に見ればよろしいのでしょうか。

○社会科調査研究委員長 巻末に、例えばその下のぼつにもまとめる場面という記載もあるのですが、話し合う中の言語活動が重視されており、自分で資料から読み取ったことを理由づけ、判断して、理由づけしたことを自分なりの考えで再構築して説明していく、そんな力がつくように、そういうところの工夫されていると思っています。

○会長 ほかにいかがですか。よろしいですか。

では、社会科の教科書にかかわってでありますけれども、東京書籍の方を推薦をいただきましたので、社会科について東京書籍の教科書を選定するということによろしいですか。よろしかったら挙手をお願いいたします。

〔挙手全員〕

○会長 全員の方に挙手をいただきました。ありがとうございました。

では、社会科の教科書は東京書籍を選定させていただくということでよろしくお願ひいたします。

では、続きまして、地図帳でありますけれども、お願ひいたします。

○社会科調査研究委員長 では、説明させていただきます。

地図帳は、帝国書院の「楽しく学ぶ小学生の地図帳」と東京書籍の「新しい地図帳」の2社の方から比較、選択して帝国書院の「楽しく学ぶ小学生の地図帳」を選定しました。

今まで4年生、5年生、6年生が地図帳を使っていたのですが、来年から地図帳は3年生から使うようになりました。今回は両社ともその辺をすごく意識して工夫されているなということでしたが、まず帝国書院の方は、非常に学ぶ上での地図資料はもちろんなのですが、関連するグラフや図表が十分備えられており、児童が主体的に学習を進めていくのにとっても向いているなというのが全体的な印象です。

個々に見ていくと、地形図や地球儀の読図技能が段階に応じて身につけられるように工夫されていて、国土や世界の地理的理解ができるように配慮されています。また、最新のデータを反映した主題図や人々の生活の様子をあらわす写真、こういうのも非常に豊富です。問題提示や着眼点を吹き出しや囲み枠で配置して選んでテーマ学習ができるように、もう地図帳だけでも十分授業が進んでいくという工夫された構成です。

そして、東京書籍と一番違うのが、やはり配色及び、見やすさなのですが、それぞれの地形図が帝国書院のほうが全体的に明るく鮮明な色調でまとめられ、標高と土地利用で色分けされ、非常に読みやすいです。読みやすいというか、今までずっと帝国書院を使っていたので、見やすさというか、なれもあるかと思うのですけれども、東京書籍の方はどちらかという落ちついた色調で、UD化の観点的には非常に落ちついていていいのですが、鮮明というか特徴がぱっとわかるのが、やっぱり帝国書院という意見が委員の大半でした。

それから、各地方に事例地域を挙げて、鳥瞰図で地域的特色を取り上げる場面でも、帝国書院は、とてもわかりやすく、5年生の産業学習等にかかわる主題図やグラフなども非常に比較、関連、統合して考察できるように配置されているかなということでした。

それから、これは両社とも共通しているのですけれども、3年生から使うということで、地形図の成り立ちや地図記号の読解、地図帳の使い方とか索引の引き方などが、今までの同じ帝国書院の地図帳よりも、とってもしやすくなり、わかりやすくなっています。冒頭でそのようなガイダンス的なところが丁寧に扱えるという地図帳で、とってもしやすくなっているということです。そのような理由から調査委員会としては、帝国書院の「楽しく学ぶ小学生の地図帳」を選定しました。

○会長 ありがとうございます。

教科書は東京書籍、地図帳は帝国書院ということですが、地図も関連というか、つながりというか、これは特に心配する必要はないというふうに受けとめていいですか。

○社会科調査研究委員長 はい。

○会長 わかりました。どうでしょう、委員の皆さん。

○委員 昔の要録の評価の観点に観察・資料活用能力というのがあったよね。今もあるのかな。

○社会科調査研究委員長 ないです。

○委員 そういう点からいくと、地図は教科書でもないし、資料だよね。資料活用能力というのは、社会科でつけていかなければいけない力の一つだとずっと思ってきたのだよね。その意味で、「I 調査表」の2番の(2)、問題追求の過程で地図を読んだり進んで活用したりすることができるように工夫されているか」という評価の観点があるでしょう。ここにぴったりくるのだよね。それで帝国書院が◎なので、私はこれでいいと思います。

○会長 2番の(2)について◎ということについて推薦をいただきました。

ほかによろしいですかね。

それでは、地図帳につきまして、帝国書院のものを採用するということによろしいでしょうか。

〔挙手全員〕

○会長 全員の方に挙手をいただきました。ありがとうございました。

では、地図のほうにつきましては、帝国書院の地図帳を選定していただくということで決まりましたので、よろしく願います。ありがとうございました。

○会長 では、今度は理科の方に参りたいと思います。

調査研究委員長のほうでご説明をいただきたいと思います。よろしく願います。

○理科調査研究委員長 よろしく願います。

理科です。理科は発行者、こちらの一般社団法人信州教育出版社の新しい教科書のほうを選定してまいりました。

その理由のほうですけれども、まず1つとして、長野県の特徴である自然、そして身近な事象を教材として数多く取り入れてあります。そして、それが児童の実態に合った内容で、地域の特性を考慮した単元配列となっています。特に生物分野ですが、気候のほうが大きく関係してきます。寒冷な気候と生物の育成状況、そういうものをあわせて学習ができるような配慮もされております。

2つ目として、児童の思考過程を大切に学習展開がなされております。問題解決を図る学習過程も丁寧に示されており、理科の苦手な教師でも指導できるように配慮されております。また、こちらのほうは、特に実験器具というものの説明であったり、安全に配慮する部分について単元の中で説明が丁寧にされております。教科書会社によりましては、単元の後ろにまとめられてしまって、苦手な先生は後ろのほうまで見る余裕がなかったり、後で気づいたりということがありますが、その点、信教の教科書はそういう配慮があつていいなと感じておりました。

3つ目として、観察実験の学習カードが充実しております。予想であったり計画であったり、記録、経過、考察、まとめ等の記入の仕方が具体的でわかりやすい、そういった子供の記入例というものが

載っていてわかりやすいです。

4番目として、挿絵、写真、図等の内容が適切で正確です。そして、本文との関連が密接に図られています。信教の教科書は、図表や写真が精選され、焦点化されております。その分シンプルでわかりやすいという点が挙げられます。

5つ目として、観察、実験の方法が大変わかりやすいです。上と似ているのでシンプルということがやはりポイントを突いて写真、図などで示されております。安全の記述が丁寧で、単元の中で繰り返し何度も指導として出てきております。

6つ目、単元の最後のほうに「まとめてみよう」というものがついているのですが、こちらがやはり児童の言葉でまとめられており、文章、また図表を使ったまとめ方の参考例として大変有効活用できると思われます。

以上のことで、信教出版者の新しい教科書の方を選定してまいりました。以上です。

○会長 ありがとうございます。

それでは、信教出版のほうの教科書を推薦いただいたわけでありますけれども、いかがでしょう。

挿絵、2番の(5) どうか。

○理科調査研究委員長 まず、上の2番の(5)のほうですけれども、こちらの方は子供目線で見えた場合、大変図とか絵がシンプルではあるのですけれども、意外とおとなしめであるというか、教科書によっては本当にパーンと派手に教科書全面を使って絵や挿絵を使ってくるのですけれども、それがちょっと思考の妨げになるぐらいある会社もあるのですが、信教の教科書はおとなしめですが、3番の(5)に関しては、逆に教師側から見た場合はよさがあるということなのですけれども、また3番の(4)の実験、観察、飼育、栽培、ものづくりなどが安全面や自然への配慮、こちらのほうで信教の部分ですけれども、ほかのところよりも比較的、こちら安全面はどこの教科書も比較的しっかりとされているのですけれども、自然環境への配慮の部分で、長野県独自ではあるのですけれども、その分長野県独自過ぎるようなところもあって、場合によって中学、高校と上がっていったときに、その植物だけであったり、その生物だけであったりというところで偏りが出ないかなという心配もありながら、そのような判断を進めております。他社はいろんな方面からアクセスをかけて、場合によっては子供が混乱するのではないかなというぐらいいろんな教材を用いているところがあるのですけれども。

○委員 今おっしゃったこと、教科書で同じ単元でちょっと見せてくれない。東書と信教でもいいから。そこでさっと映るかな。

○理科調査研究委員長 例えばこちらの方、教育出版社の方ですけれども、6年生の「人の体のつくり」という単元の方で、血管の方が大変リアルに載っております。また、こちらもすごくいいなと思うのですが、その反面、信教の方は、例えばこのようなシンプルでわかりやすさを追求してこのようにしているのですけれども、子供たちの意欲や気を引くといったら、我々調査委員の中ではこっちの

ほうかもしれないなという印象を受けたりするものが多々あります。また、こちらの教材は、実際に体に当てながら、教育出版社は、友達の体の中を想像したりというふうな、そんな工夫もされている中、意外とこういう挿絵であったり、そういうものについては信教の教科書はシンプルにあっさりとして、でも押さえるべきことは押さえる。意外と子供たち、こういうものを見るとわくわく、どきどきするのですが、なおさら疑問が出てしまうのですよね。この辺の血管ぐちゃぐちゃしているところどうなっているのだとか、行った先が、この先はどういうふうにしてまた戻ってこられるのだとか、新たな疑問がどんどん出てきてしまって、子供たちの疑問から授業を展開していくときに思考が広がってしまうので、なかなか押さえるべきところが押さえにくくなってしまいうだろうなということが我々調査委員の中では話題に挙がっておりました。

○委員 それは信教のほうは長野県の実態に合わせてつくっているもので、すごく長野県の子供たちの実態に合っている単元と、それとちょっとそれよりは全国的に展開しているような教科書のほうはすぐれているかなというのは、そういう部分できっとあるので、やはりトータルすれば長野県の子供たちに合わせた教科書の方がいいのだろうということだと思えるのですけれども。

○理科調査研究委員長 そうですね。調査委員は私を含めて5名おりましたが、やっぱりいろいろと派手に、格好よく教科書を見栄えよく、興味を引くようにしている教科書もあるのですけれども、やはり先生が教室や理科の準備室で撮った写真であったりとか、そういう生のものが載りながら、先生方がここ困るよね、というあたりを上手にピックアップしてくれている信教の教科書は、やはりわかりやすい。的確に我々が求めているところを見せてくれているとか、子供に考えさせるべき視点を流れとして整備してくれているということも、そこも大きな要因となっております。

○会長 子供たち主体、地域の特性、そういうものはやっぱり感じながら教科書等にかかわるものだから、そういう意味では子供たちの思考過程だとか、それからそういう理科学習を進めていく、そういう流れ、季節、先ほど生物分野と、これなんか非常にすばらしいものがあると。その思いが多分先ほどの強烈なあの血液の流れの写真的なものだけではなくて、むしろシンプルにするという、その意味合いがあるような気がするのです。ほかの皆さん、いかがですか。

○理科調査研究委員長 身近な生活の中で普通と違うものから、あれっとか、おやっとかという、その学習意欲というか、疑問の持ち方もあると思うのです。理科というのは、小学校の段階は特に、身近な生活や身近なものの中から、あれっとか、おやっとかというものを大事にして、それを学習の中に位置づけていくということが信教さんのやっている一番の私は狙いなのかなと思うのです。だから、食いつきの部分でいうと、やっぱり派手な写真の方がぐっと子供たちは寄ってくるのだけれども、理科は具体から抽象に入っていく学問だと思うので、私はそういった意味では学習意欲というのは、確かに比べても劣らないのではないかなというふうに判断をしているのです。

○会長 ありがとうございます。それでは、理科につきましては、信教出版のほうの教科書を選定するということがよろしいでしょうか。挙手をお願いしたいと思います。

〔挙手全員〕

○会長 では、全員挙手をいただきました。ありがとうございます。

理科については信教出版の教科書を選定させていただきますので、よろしくをお願いします。

○会長 それでは、調査研究委員長のほうから、今度は生活科のほうでありますけれども、お話をいただきたいと思いますが、よろしくをお願いします。

○生活科調査研究委員長 よろしくお願いいたします。

生活科、どんな教科かなというふうに考えたときに、やはりこの名前にもありますが、子供たちの生活をつくるといいますか、生活そのものが生活科ということなのかなというふうに思っております。子供たちの目の前にある、その生活とつながっているということから、それを学びに生かしていくということが大切で、そして生きる力を培っていく教科であるという視点から、考えていきました。

長野県の風土や環境に合わせた自然や生活を単元に取り入れてある。そして、自分を取り巻く人々の体験や「ひと、もの、こと」とのかかわりが深められるように教師自身の工夫が授業をする人の工夫にあらわされている。また、地域の特性が織り込まれて児童にとって身近なもので興味が引ける。そのため上小地区の子供たちが生活を見詰め、生活を豊かにする教科書としては、信州教育出版の生活科の教科書が最適であるというふうに考えました。

イラストや写真が、多用されているだけでなく、効果的に配置されているなどと思います。また、文章の量も1、2年生の子供が読むという力をつけるにも低学年の段階で配慮されているなどというふうに思います。そして、こういうことがやりたいなという体験も想起させる。また日常的な地域の様子が豊富に取り込んだ教科書であると思いました。

この教科書は、信州らしさが表現されており、調査委員会として子供たちの意欲を高めるには大変有効であると考えます。加えて、長野県という風土に合った季節の移り変わりや風景の違いも効果的に配置されています。特に小単元にかかわる初めのページに示されている大きな絵や写真は、子供たちの夢を抱かせ、学習を触発します。今回、具体的な事実をリアルに紙面にあらわし、気づきの質、知的な面を高めるという点で、以前にも増して充実したと考えています。教科書で伝えるべき活動内容や目当てなどの意図が、児童に明確に伝えやすいような工夫が全体的に施されています。以上のことから、信州教育出版の生活科の教科書が上小地区の子供たちにとって最適だと考え、挙げさせていただきました。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

どうでしょうか、ご意見あるいはご質問がございましたら挙げていただければと思います。

2番(5)の項目のところで、丸の部分は、挿絵、写真、図表、配色、コントラスト等は鮮明でわかりやすくとありますが、この辺に難があるということですか。

○生活科調査研究委員長 こういう言い方は変なのですけれども、明るさという面は少し弱いかなという気はするのですけれども、それも正直子供たちにとっては、それが本当に明るく鮮明であることがいいのかなと思う面もあるのです。ただ、具体的などいいますか、植物のものとか、そういったものはやっぱり鮮明さが、ややほかの教科書よりも少し弱いなという面があるというところからで丸としました。

○会長 要するに教科書の作成部分で、写真やこういうものに関してちょっと弱いということでしょうか。

○生活科調査研究委員長 表現の切り取り方が信教はいいと思うのです。切り取り方がいから、主体的な取り組みがしやすかったりとか、子供たちが気づきの質を高められるように試行錯誤できると思うのです。けれども、見てすぐわかるか、わからないかというようなところからすると、少し弱いのかなとも思います。なので、そういう意味で丸をつけました。

○会長 それでは、生活科にかかわりまして、信教出版の教科書を選定するというところでよろしいでしょうか。挙手をお願いしたいと思います。

〔挙手全員〕

○会長 全員の皆さんに挙手をいただきました。ありがとうございます。

では、生活科につきましては、信教出版の教科書を選定するというところでよろしく願いいたします。ありがとうございました。

○会長 それでは、今度は音楽につきまして調査研究委員長の方からご発表いただきたいと思いますが、よろしく願いします。

○音楽科調査研究委員長 よろしく願いいたします。

お手元に資料がおりかと思いますが、今回3名の委員で検討させていただき、教育芸術社の教科書をお勧めしたいと考えております。

理由ですけれども、調査表における項目、全13項目中のうち11項目において大変すぐれた評価であると調査委員で話し合っって評価をいたしました。各学年ともにさまざまな楽曲や音楽活動がバランスが非常によく配置されているということ、それから、6年間を通した系統性が非常によく考えられて構成されているということ、同じ音楽を形づくる要素が発達段階が進むにつれて既習事項を生かしながら、6年間かけて発展的に学ぶように配慮がされているなどというふうに感じました。

「理由書」の③のところですが、対話をしながら音楽づくりをする活動が随所に提案されております。また、友達と話し合う活動例なども鑑賞領域において非常にたくさん盛り込まれておりまして、新学習指導要領における主体的・対話的な学習、学び、そういうところに大変配慮されているなどということを感じました。

④です。楽曲の心情を捉えやすくなるような挿絵や写真が、非常に多く掲載されております。感動

的なものもたくさんございます。それから、学習を進めるに当たって、どの教科でも学習目標と、音楽を形づくる要素、これは授業を進めるに当たってとても大切になるところだと思いますが、それが必ずページの決まった位置に記されております。その学習題材において、身につける学習内容が児童につきやすいよう配慮されているというふうに感じております。

⑤です。それぞれ子供たちの個々の興味や関心の高まりに応じて、さらに発展が見込めるように、鑑賞教材などでは比較鑑賞ができる楽曲、題材等が盛り込まれていたり、それからそれにまつわるコラムなどが掲載されていて、子供たちの興味・関心が非常に高まるようにできているというふうに感じました。また、調べ学習の要素、それから社会や理科や英語等の他教科にまたがって話題が振れるような題材が盛り込まれていることによって、総合的な学習とか道徳、人権教育への関連づけが期待できるということが新しいと感じました。

⑥です。各ページで大変音楽の主題に意識が向けやすくなるようにレイアウトの工夫がなされているとともに、使用されている色彩も子供たちの感覚に見合った大変豊かな色づけで構成されています。また、登場するキャラクターに刺激的な要素が少なく、表情も穏やかで子供たちが落ちついて学習に向かえるような配慮がなされているということを感じました。あとは、児童目線で見た楽器写真の掲載、たとえば1年生では鍵盤ハーモニカの図表で補助的に手を重ねて掲載するなどの工夫がありまして、児童の理解を助けるために視覚的な配慮が大変よくできていると感じております。

最後になりますが、⑦です。郷土の音楽、芸能についても大変記載が多いです。歌い継がれている日本の歌等もとても大切に扱われていると感じました。コーナーが設けられて、全学年でその学年に見合った、発達段階に応じた楽曲が掲載されています。日本的な心情や日本語の美しさにも十分に触れられるような工夫がされていると感じました。この辺は、教育芸術社が大変すぐれていると感じました。

以上です。

○会長 ありがとうございます。いかがでしょう。ご質問、ご意見。

では、ちょっと私の方から。今ご説明いただいた、一番最後のページのところの道徳や人権教育への関連づけが期待できる内容が盛り込まれている。発展性を持たせていることでお話をいただきました。音楽で道徳や人権教育にかかわる部分というのはどの辺のところをイメージしたのですか。

○音楽科調査研究委員長 教育芸術社なのですが、このような郷土芸能にまつわって震災の復興状況についてコラムがあるとか、パラリンピック、障害者スポーツに関する写真や記述とかがございます。これはパラリンピックですね。これは鑑賞等に絡めて音に関する豊かな知識が学べるように工夫されていると感じました。

○会長 はい。どうぞ、委員。

○委員 私も教育芸術社を推薦したいと思っていました。というわけは、教育出版の写真にちょっとした気になる点があるので教育芸術社がいいと思いました。その気になる点というのは、日本の

音楽の美しさに触れられるような工夫があるというところの5年生の「赤とんぼ」の歌詞の中に「小かごに摘んだはまぼろしか」、桑の実を摘んだ、その実は甘くておいしい実ですが、秋の歌ですよね、「赤とんぼ」は。

○音楽科調査研究委員長 はい。秋、夏の終わりから秋にかけてです。

○委員 夏の終わりに蚕さんに桑をくれる、あの桑の実ではなくて、夏の終わりはヤマボウシの実ではないかと。山桑というのです、またの名前を。お蚕さんにくれる桑の実は6月の終わりから7月になりますでしょう、子供のころに食べたのは。そんなころは赤とんぼは飛んでいません。佐藤邦雄先生って、軽井沢の植物園長をずっとされていた方が本当はヤマボウシではないかと、お蚕さんにくれる桑ではない、とおっしゃっていました。

○音楽科調査研究委員長 これは教育出版の方です。

○委員 だからこれは採択しないほうがいいかと。写真はお蚕さんにくれる桑の実と説明ですが、そうではないと思うのです。

○会長 それでは。写真のミスがあると。

○委員 ええ、あれはミスだと思います。

○会長 ありがとうございます。音楽にかかわっては、教育芸術社のものを採用するということがよろしいですか。挙手をいただければと思います。

〔挙手全員〕

○会長 では、全員の皆さんに手を挙げていただきましたので、教育芸術社の教科書を選定することによってよろしく願いいたします。ありがとうございます。

○会長 それでは、これから図画工作のほうの教科書について調査研究委員長の方からご説明をいただきたいと思いますが、よろしく願いします。

○図画工作科調査研究委員長 図画工作では、調査の結果、日本文教出版、通称日文と申しておりますけれども、の教科書を選定しました。もう一方の開隆堂の教科書もこれまでの教科書と比べて新しい学習指導要領を踏まえ、作品中心の写真資料から児童が製作に取り組んでいる写真を数多く取り入れるようになるなど改善が見られた点が多くありました。また、デジタル化という点では、開隆堂のQRコードを利用して、例えば絵の具の使い方などが動画で手軽に視聴できるなど、家庭での個人利用も踏まえたつくりになっているところなどは、日文以上の面も見られたところもあります。そのように両社とも甲乙つけがたく、充実しておりましたが、今回は次の2点から日文の教科書を選定するに至りました。

まず、1つ目です。日文の教科書は、題材の内容が一目でわかるようにデザイン化された題材名とともに、実際の活動へといざなうリード文が大変すぐれていました。例えばですけれども、「くるくるクランク」という工作の題材です。これ見ただけでデザインとか、それから「くるくるクランク」と

という言い方で、クランクをこうやってくるくる回す工作だということのイメージがぱっと湧くかなということをおもうのですけれども、リード文ではこんなことが書かれています。「クランクの仕組みでしかできない動きがあるよ」、「どんな動きができるかな」、「何の動きをあらわせるかな」というようないざない方がされています。こういうところで、児童が何に注目してイメージを豊かに膨らませていけばよいのかということがとても明確だなということと、あと本当にわくわくする言葉がけがなされているなということをおもいます。

それに対して、開隆堂の教科書も、同じように工作では、例えばこの「ゆらゆら、どきどき」という工作があるのですけれども、ここのデザインや何かは一目で何をやるかということがよくわかるような題材面の工夫があるのですが、リード文、「どんなものが動くとおもしろいかな」、「揺れながら動くおもちゃをつくろう」というような言い方になっています。やや漠然とした物の言い方にとどまっているような面があるのではないかなということをおもいます。

今挙げたのは、本当に一つの例にすぎませんが、全体的な傾向を見ると、子供の意欲をかき立てるリード文というのは日文の方が評価が高く、ここが一つの選定ポイントになりました。

次に、2つ目です。日文の教科書は、全ての題材が見開き2、3ページで見やすく構成されています。そのほかにも写真や資料の枠の形、色彩、情報量、マークによる表示等にも配慮するなど、特別な支援を必要としている子にもわかりやすいユニバーサルデザイン化への配慮が行き届いている点を評価しました。

それに対して、開隆堂の教科書もユニバーサルデザイン化への配慮はなされていましたが、例えばさっきのページでいけば、「ゆらゆら、どきどき」のページなのですけれども、工作に対して、こっちは「カット、ペタッと、すてきな形」というふうに見開きで違う題材が載っています。こういうふうなことがやはりほかの学年でも複数見られまして、そういったことからすると、題材の種類をふやしたいという意図があるのかなとは思うのですけれども、さまざまところに注意が向きやすい子供たちにとっては、余計な刺激になる可能性があるのではないかということが意見として出されて、見開き1題材が徹底されている日文のほうが評価が高く、2つ目の選定ポイントということになりました。

本当に中身的には甲乙つけがたい教科書ではありましたが、以上の2点から、本教科、図画工作のほうでは日文の教科書を選ぶということで決定いたしました。

以上です。

○会長 ありがとうございます。日本文教出版の方を推薦いただきましたけれども、ご質問やご意見ございますか。

先生、すみません。まとめの発表をいただいたユニバーサルデザイン化、今の見開きの中で両方に題材があるということは、発達特性を持っている子供さん等にかかわって配慮しているのではないかとということによろしいですか。

○図画工作科調査研究委員長 はい。例えば見開き、両方同じ題材であれば、これはどの瞬間にどこ

を見てもその題材にかかわることですので、その子たちにとっては、その題材に集中して向かう意欲が湧くと思うのですけれども、別の題材のページを見ていたのでは、全く発想も構想も違ってくるわけですね。そのページは見えないように置きなさいと言ってもなかなか教科書は置きにくいですし、見ながらということになると、どうしても子供たち、こうやって置いたときに要らないところに目が行ってということは生まれてくるかと思います。

○会長 先ほど題材をやっぱり若干ふやすという目的があるのかなというお話でしたが…。

○図画工作科調査研究委員長 はい。それは感じました。

○会長 題材についてはうんと違いますか。

○図画工作科調査研究委員長 いや、そんなに多くは違いません。

○会長 ではプラスアルファぐらいの、題材量が組まれているということによろしいですか。

○図画工作科調査研究委員長 と思います。はい。

○会長 ほかにどうでしょうか。

〔発言する者なし〕

○会長 よろしいですかね。

それでは、図画工作にかかわりましては、日本文教出版の教科書を選定するということによろしいですか。挙手をお願いします。

〔挙手全員〕

○会長 では、全員の皆さんに挙手をいただきましたので、図画工作は日本文教出版の教科書を選定するということによろしくお願いします。ありがとうございました。

○会長 それでは、これから家庭科の教科書について調査研究委員長の方から、ご説明をいただきたいと思いますので、よろしく願います。

○家庭科調査研究委員長 よろしく願います。家庭科について説明させていただきます。

まず、調査表1の方をごらんください。東京書籍と開隆堂の2社の教科書の中から選定をいたしました。採択基準と観点を照らし合わせて1社ずつ検討しましたところ、東京書籍は13項目中8項目が二重丸、開隆堂は13項目中12項目が二重丸となりました。

その根拠といたしまして、適当と認めた理由のところには各社の工夫があったり、相違点があったりするところを教科書会社名が書いてあります。結果に基づいて、観点について二重丸と丸がついておられます。

それから、学習指導要領の前文に学校においては、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身につけられるようにするのかを、教育課程において明確にすることが重要であるという文があります。また、家庭科では、自分や家族の生活を見つめ、支えられている自分からできるようになる自分へ成長することを大切にしています。その観点からも検討をしました。調査委員3名が

選定した教科書は、開隆堂の「わたしたちの家庭科」です。開隆堂の家庭科においては、何を学ぶのか、どのように学ぶのかが明確に打ち出されており、主体的・対話的で深い学びが実現できるように学習の進め方も単元を通して一貫していることが選定の大きな理由になっております。

選定した理由について詳しく説明させていただきます。選定した理由の方をご覧くださいながら、適当と認めた理由の方も一緒に見ていただきたいと思います。まず1つ目は、何を学ぶのか、何ができるようになるのか、どのように学ぶかを学ぶ子供自身が意識できるということです。適当と認められた「理由書」をご覧ください。題材の導入に学習のめあてを提示し、「やってみよう」、「考えよう」で自分の課題を持ち、主体的に学習に取り組み、最後に「振り返ろう」、「生かそう」で学んだことを家庭生活に生かせるように題材の構成が工夫されています。どの題材も3つのステップで構成されています。第1ステップでは、「なぜ縫うのだろうか」、「なぜ整頓するのだろうか」という言葉が、どの題材にも「なぜ」というのがあります。それから、第2ステップは、「ゆでると炒めるはどのように違うのだろうか」と。「どのような整理整頓ができるのだろうか」のように疑問形の項目名がついていて、学習内容がイメージできる表現になっています。この文を読んだ児童は、自然とどうしてだろうとか、どうすればいいのかなと考え、問題解決的な学習がやりやすくなると感じました。

単元ごとに「学習のめあて」、「振り返ろう」にはチェック欄があります。「できたかな」という技能チェック欄も設けられており、児童自らが評価できるようになっています。「できたかな」チェックは、東京書籍にもありますが、2から3項目です。開隆堂は4から6項目あり、子供自身が何ができるようになったか評価しやすい項目になっています。

それから、2番の(3)をご覧ください。基礎的・基本的な学習をスモールステップで積み重ねられる単元構成になっており、易しいものから難しいものへ、さらに季節を考慮して配列され、生活をよりよくする実践に結びつくような配慮がなされています。今子供たちは、さまざまな家庭環境の中で育っており、生活経験の幅が大変大きくなっています。また、配慮や支援が必要な子供も多くなっています。簡単なものから繰り返し積み重ねていくスモールステップの単元構成は、大変有効であると思います。生活経験が乏しい子供もやってみようという気持ちを持てると思われます。調理実習では、グループ実習を行っている学校もありますが、簡単な調理は一人実習やペア実習もやりやすいと思われます。

2つ目の選定理由に行かせていただきます。生活環境に大きな差のある児童や配慮が必要な児童、ユニバーサルデザインにも配慮されているということです。適当と認めた理由の2の(5)と3の(5)をごらんください。実習や製作などの手順が大きく全て横流れのデザインで統一されています。また、紙面もすっきりしていて見やすく、文章も読みやすくなっています。東京書籍については、今回の教科書からA4判になりましたが、情報量が多過ぎてかえってわかりにくい印象を受けました。

観点3、(4)をご覧ください。家庭科で基礎・基本を繰り返し学習し、知識、技能を身につけ、自分の生活に生かしていくように構成されています。技能が身につけていない子供にとって、基礎・

基本を繰り返し学習することはとても大事なことだと思います。

それから、観点3の(2)ですが、ここは東京書籍を二重丸としました。学びを生活に生かす「生活を変えるチャンス！」というコーナーが5カ所に設けられています。学習指導要領に新設された家族、家庭生活についての課題と実践に対応したページになっているのが理由です。開隆堂もチャレンジコーナーが学期ごとのまとめりに配置され、自分の技能レベルに合わせて実習を行う工夫がされていたり、やってみたいと感じる実習例や製作例が多数紹介されてたりします。学校では、長期休業に合わせてお手伝いや家族とのかかわりを大切にしましょうという指導を行うので、チャレンジコーナーを使って家庭科で学習したことを家庭生活の中で実践していくことができると思われます。

また、今まで説明させていただいたことを総合してみると、家庭科を教えた経験のない学級担任や男性の先生も教えやすい教科書ではないかと思います。以上の点から、開隆堂が適当であると判断いたしました。

○会長 ありがとうございます。皆さん、いかがでしょう。ご意見、ご質問。

私の方から。それでは、「理由書」のまとめの文のところで、3つのステップ、見つける・気づくが1つ、わかる・できるが2つ、生かす・深めるが3つ目で、題材を構成し、第1ステップにはなぜ縫うのだろう、なぜ整頓するのだろう、ゆでると炒めるはどのように違うのだろうというふうに疑問系の項目名がついていて学習内容をイメージできる表現となっている。なぜ縫うのだろう、なぜ整頓するのだろうが第1ステップ。

○家庭科調査研究委員長 そうです。

○会長 では、次のゆでると炒めるはどのように違うのだろう、これは第2ステップ。

○家庭科調査研究委員長 はい、そうです。

○会長 第3ステップは。

○家庭科調査研究委員長 第3ステップは、まとめになるので、手縫いを生活に生かそうとか、そういうまとめになるような言葉になっています。物の使い方を工夫しようとか。

この開隆堂の教科書の特徴は、第1ステップと第2ステップが疑問系の言葉で最初にできていて、今までと全く違う表現になっていて、これは主体的で対話的で深い学びを追うことをとてもよく考えているのだなと感じましたので、それを抜き出して記述してあります。

○会長 ユニバーサルデザインにも配慮されているという推薦理由を入れていただいたのですけれども、この辺は、特にこの部分が配慮につながる点ではないのというようなところがあったら教えてもらいたいのですけれども。

○家庭科調査研究委員長 これが整理整頓のときの整頓の手順というのが出ているのですが、本当に子供に見てもらいたいところは、ピンクの帯でずっと横まで、こんなふうに2ページ見開きでずっとつながっています。これはユニバーサルデザインです。ほかのところも同じように、例えばこれは青菜のおひたしの実習のところですが、やっぱり教科書の真ん中のところにピンクの帯で2ペー

ジずっとつながっています。

○会長 なるほどね。現場でやっぱりそういう流れを子供に提示したときに、特に発達特性などを持っている子供たちは理解というか受けとめやすく、視覚に訴えろとか、そういう意味合いを含めて作成されているということでしょうか。

○家庭科調査研究委員長 そうです。

○会長 ありがとうございます。どうでしょうか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○会長 それでは、家庭科にかかわりまして開隆堂出版の教科書を選定するというところでよろしいでしょうか。挙手をお願いしたいと思いますけれども。

〔挙手全員〕

○会長 では、全員の皆さんに挙手をいただきましたので、よろしくお願ひします。家庭科につきましては、開隆堂出版ということで選定いただきました。ありがとうございました。

○会長 それでは、これから保健の教科書選定にかかわっていただきました調査研究委員長のほうからご発表をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

○保健科調査研究委員長 お手元の、まず選定理由の方から説明をさせていただきます。今回5社の教科書を委員会の方で検討させていただきました。そのうち、そこにありますように保健の教科では、東京書籍株式会社の「新しい保健」3、4、5、6年生版を選定するのがふさわしいということで委員会としては結論を出しました。

大きく以下の3点について他社の教科書にはないということで、評価を委員会の中では得ました。まず、分量、内容、それから程度が児童の心身の発達段階に応じて考慮されている点。それから、2点目、3点目が各委員の共通だったのですが、挿絵、写真、図表、配色など、他社と比較しても鮮明で大変学習意欲を喚起するような工夫があることと、それから本文の書体が通常ですと教科書体ですとか明朝体を使用しているのですが、ユニフォントという東京書籍独自のフォントを使用していて、これが見やすいこと、それから改行が文節で区切られているため読みやすいという点が評価されました。

それから、記述欄が充実しています。その分若干教科書は厚くなっているのですが、授業の進路に合わせて子供たちが気づいたこと、思ったこと、それから友達の意見等、授業中に気づいたことを書き込みながら自分の考えを深めていくことができるという点で調査委員会のほうではまとまりまして、東京書籍株式会社の教科書を選定させていただきました。

○会長 ありがとうございます。

それでは、どうでしょうか。ご質問、ご意見ございますでしょうか。

「I調査表」のところに二重丸とか丸をつける欄があるのですけれども、ここの2番の(5)、全て

の児童にとって読みやすさに工夫され、挿絵、写真、図表、配色、コントラストとも鮮明で学習意欲を喚起するように配慮されているということで、東京書籍だけが二重丸、あと4社は普通の丸というふうになっていますけれども、この部分をちょっと説明していただけませんか。

○保健科調査研究委員長 例えば4年生の2つ目の単元、体の発達、大人になっていく自分の体がどのように変化するか等の導入の挿絵のページですけれども、このような写真、これは選ばなかった別の会社のものです。給食を食べている風景だったり友達と遊んでいる姿だったり、体が年齢に応じて発達をしていく。こちら側の写真なんかは、3年生で体を成長させるには運動や睡眠や栄養のバランスが大事であるということを経験してきたのにつなげて、こんなようなのが出てきます。ここから次のページが、こんなふうに体に変化していきますよという流れで入ってくるのですけれども、選定させていただいた東書の方は、2年生のときに生活科で「大きくなったぼく・わたし」という単元があるので、その学習で、こんなような赤ちゃんのころ、手形を調べたりとか、こんな赤ちゃん時代を調べるなんていうこともやるのですが、こんなような自分の前年度の学習内容だけではないところの写真から導入をして、興味を持たせた上で、このページは、似たようなものですが、体が乳幼児から比べるとこのように大きくなったよというところへ持ってきて学習が流れていきます。最初の導入場面を一つ例にとったのですけれども、前年度の学習を持ってくる会社が多い中、東京書籍さんだけは、もうちょっと前の、入学式とかその前の自分が小さかったころの写真なんかを持ってきて、より学習に興味を持たせて入り込めるような写真がありました。

○会長 他の出版社は、前年度の写真に掲載しているが、東京書籍はもう少し前、1歳ごろとかの写真を使っているということですね。

○保健科調査研究委員長 1、2年時の学習であるとか、それからもっと前のことも思い出せるような写真を効果的に使っているという単元がありました。

○会長 なるほど。いかがでしょう。

[発言する者なし]

○会長 新しい保健の3、4年生というのは何時間ですか、年間。

○保健科調査研究委員長 年間4時間です。

○会長 5、6年は。

○保健科調査研究委員長 5、6年は8時間ずつです。その点についても少し補足をさせていただいていいですか。学習時間が3年、4年それぞれ4時間ずつで、どうしても内容が盛りだくさんで、授業時間では4時間でしか扱えないのですけれども、どうしても子供によってはもっと知りたいとか、もっと勉強したいとか、発展的な内容として、例えば総合的な学習の時間を絡めたりとか、夏休みの自由研究に持っていったりとかということも考えられるのですが、そういった場合に家庭でもできる動画教材にリンクできるというのが東京書籍さんの説明で、教科書の至るところに、このDマークというQRコードが出てくるのですけれども、これを読み取ると、インターネットにアクセスできて、

どこにいても動画教材を視聴することができます。右側、これは5、6年の教科書ですけれども、右側のところにこんなような動画教材がありますよという例が載ってしまっていて、例えば授業の中で時間の調整で、1時間視聴の時間がつくれたとしたらこういうところから入っていくことは可能ですし、家庭でもQRコードさえあれば動画教材を呼び込むこともできます。子供たちが自分で興味・関心を抱いて、もっと調べたい、もっと知りたいというふうになった場合にもすぐ対応ができるということです。今までは学校にこんなようなCDがあって、そこに動画教材が入っていて、それを一斉に視聴するとか、またはデジタル教科書で対応していたのですが、これはあくまでも教室の中だけの環境で、外では対応できなかったのですけれども、今回の東京書籍さんは、このような対応が唯一できていたので、この点もちょっと評価は大きかったです。

○会長 ありがとうございます。ほかはよろしいですかね。

それでは、体育の方の保健でありますけれども、保健につきましては東京書籍の教科書を選定するというところでよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をいただきたいのですが。

〔挙手全員〕

○会長 ありがとうございます。全員の皆さんに挙手をいただきました。

それでは、保健については東京書籍の教科書を選定することにさせていただきますので、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

○会長 それでは、算数につきまして調査研究委員長の方からご説明をいただきたいと思いますので、よろしく願いします。

○算数科調査研究委員長 よろしく願いします。

算数ですけれども、啓林館「わくわく算数」を選定いたしました。理由として、「自ら問題を見つけ、見通しを持って解決へと向かう学び」と、「他者と考えを共有してよりよい解決へと高め合う学び」、この「自立」と「協働」を重視し、主体的・対話的で深い学びを実現するという意図が明確に打ち出されているという点から啓林館の教科書を選定いたしました。具体的には、以下の4つの観点からお話しさせていただきます。

まず、1つ目ですけれども、概念形成にこだわり、算数から数学へと系統性を重視した学習内容や単元構成ということで、発達段階に応じて数学的な表現方法等を系統的に配置し、絵、図、表、式、言葉などを関連づけながら、統一的、発展的に考えられるよう工夫されております。また、既習事項を想起して確認することができるプレ問題―「準備」というコーナーがあるので、新単元へのスムーズな導入につながっていると考えられます。

2つ目として、思考力、判断力、表現力を育む工夫として、数学的活動を積極的に取り入れ、知識、技能を確実に身につけるとともに、筋道立てて主体的に考えていけるよう単元構成や問いかけ、問題が工夫されています。また、吹き出し等を効果的に活用して、主体的に自分の考えを説明したり、多

様な考え方を伝え合ったりできるような配慮もされております。

3つ目ですけれども、算数への興味・関心を高め、自ら学ぶ力を育む工夫ということで、QRコードを利用して子供たち自身が学びを振り返りながら学習を深めたり、定着させたりすることができるよう工夫をされています。これは啓林館のみの工夫となっています。授業中、タブレットを利用した個別学習または家庭学習で活用できるのではないかと考えています。また、身近な生活場面を題材に、自ら課題を見出し、数学的な解決の方策を考えることを通して、算数を学ぶ意義を感じられるよう工夫されています。これは2年生の教科書の例ですけれども、魚釣りの、身近な子供たちの生活場面を取り上げてあります。『ウサギさんはこぶし3つ分の魚を釣ったよ。リスさんは、僕はこぶし4つ分だよ。僕の方が1つ分長いね。』 こういった生活場面の中で子供たちは、いろいろな生活経験を踏まえながら直接比較や間接比較をしたり、今ここにも数図ブロックが下にあるのですけれども、こういった数図ブロックを使って任意単位で測定をしたりする中で、普遍単位、センチメートルであるとか、そういったところへ子供たちの学びが深まっていくような、そういった自然な流れになっています。

あと、教科書のこういったところに、QRコードがあります。ここに読み込んだものがあるのですが、これは「長さ」の物差しの使い方の動画が見られるようになっています。ここが速さですね。ちょっとゆっくり聞きたいときは0.7でやるとちょっとゆっくりとか、説明がその子に応じて、0.5だとかかなりゆっくり、ちょっと戻りたいときはもう一回戻る。そういったような工夫もすることができます。これは全学年が見られますので、復習をして、ちょっと2年生、5年生の勉強が苦手だな、わからないなというところは、こういったところを選んで復習できます。

○委員 そういうふうにあるのは啓林館だけ。

○算数科調査研究委員長 これは啓林館だけでした。こういった動画ですとか、数直線の書き方とか、こういったおさらいもできますし、練習問題を繰り返しやってチェックをして、自分がどういうところができないかというようなところも確認をしたりとか、そういった工夫がされています。

あと、啓林館のいいなと思うところなのですけれども、ほかの教科書はなかったのですけれども、実際に10センチの長さをつくってみようとか、手や指を使って10センチの幅をつくってみようと、こういった量感とか長さの感覚とか、こういったものをとても大事にしているなということを感じました。

あと、評価の最後の確かめのところなのですけれども、こういったところに「長さの単位がわかるかな」とか、「物差しの目盛りが読めるかな」等、評価の観点がきちんと明確になっていて、もしそこがつかずくなら40ページへ戻りましょうとか、具体的にやるべきこと、つける力と自分の力とぐるぐるスパイラルに繰り返しながら自分で評価しながら学習が進められるといった、そういったところも一つ大きなところかなというふうに思います。

すみません。長くなってしまいました。ありがとうございました。

○会長 算数の方のご説明をいただきましたけれども、ご質問、ご意見ございますでしょうか。

このQRコードを使ったものというのは宿題というか、いろいろあるのだけれども、授業でも当然使えるわけですね。

○算数科調査研究委員長 そうですね。読み込んで個別に、全部終わってしまった子はもう一回ということも可能だと思いますし、内容によってはもうちょっと説明が欲しいななんていうときには、全部があるわけではありませんで、必要なところで使い分ければ有効には使えるかなというふうに思われます。

○会長 ちょっと私が思ったのは、宿題でやってもらってもいいのだけれども、たまたまそれが使えないというような状況であれば、ちょっと宿題は不公平感があるかなみたいな。やるのだったら、やっぱり授業できちっとやっていくべきかなと。発展としてもう一回自分でうちで見てみようみたいなことは当然あるかもしれないけれども、そういう意味合いで今ちょっとお尋ねをしました。

○算数科調査研究委員長 そうですね。宿題としてはちょっと、おうちにないお子さんもいますので。

○会長 やるならやっぱり授業できちっと、扱うなら扱うというやり方で。

○算数科調査研究委員長 自主学習で個人的に使うお子さんは、そういったところで復習をとということも可能かなというふうに思っています。

○委員 先生の学校は、そのQRコードを使えるように全員がタブレットはあるのですか。

○算数科調査研究委員長 特別支援学級の方にはあります。順々にきっと整っていくとは思いますが。教師のこういったスマホですとか、ちょっとわからないお子さんがいれば、ちょっと使いながらということも可能かと思えますけれども、まだ一人一人というところではないです。

○委員 この調査表を見ると、一番左の東京書籍もかなり評価が高いのですけれども、丸が啓林館が1つで、東京書籍が2つついていますが、この辺の何か、調査委員の方で、啓林館と決めた違いというのはどの辺にあるのでしょうか。

○算数科調査研究委員長 一番大きなところは、割と東京書籍さんは、丁寧過ぎてしまって、答えが見えてしまいがちです。子供たち自身、課題を見つけて追究していくというよりも、先が見えすぎてしまう。わからないお子さんには結構丁寧な扱いでいいのですけれども、もうちょっと考えさせたい。考えさせる場面が大事にされているというところで、違いがあるかなというふうに思いました。

○会長 委員、お願いします。

○委員 啓林館は12個も二重丸がついているのですが、2番(5)の丸というのは、どこがいけなかったのですか。どんな理由で丸になってしまったのですか。

○算数科調査研究委員長 これは4年生の割合のところなのですけれども、5、6年と同じような図で、ちょっと難しいのではないかなという理由です。

○会長 ちょっと一ついいですか。算数、数学は、特に個人差が出やすい。また学校嫌いは算数や数学から始まる可能性もあるかなというふうなことをちょっと思って、気にかけることがあるのですけれども。

○委員 若いころ、先輩がこう言ったのですよ。啓林館は理屈っぽい。さっき、東書は答えがわかってしまい過ぎる。啓林館は其中で課題を見つけて深めることができる。それ確かに、あとは教師の力量だなということを感じたのですけれども、今も昔も余りスタイルが変わっていないなというよ
うな印象を受けました。やはり課題解決的に深めていくということを調査委員の皆さんは選択したわけ
ですよね。

○算数科調査研究委員長 そうですね。自ら課題を持ってというところを。

○委員 そこに着目して選んだのだと。

○算数科調査研究委員長 はい。

○委員 はい、わかりました。

○委員 算数を嫌いにならないような何か工夫がありますか、啓林館に。

○算数科調査研究委員長 積み上げが大事なので、やっぱり子供たちが自分がどこでつまづいている
とか、そういった自己評価をしながら繰り返し、繰り返し積み上げていけるところです。自分はどこ
が足りないのか振り返っていくところで課題がはつきりしてきますので、そういったところを
1個1個丁寧に積み上げていくしかないかなというふうに思うのです。できないと楽しくないので、
できた喜びを味わえるように丁寧にやっていきたいと思います。

○委員 ただ1点、答えがわかってもいいではないかと私は思っています。既習の算数の力を使って、
わかっている答えをいかに説明していくかなのだよね。そこのつなぎこそが考える力を育てるのだな
と。だから、段階的に深めていくというのが苦手な子もいるのです。教師の力量と言うけれども、私
はある時間、ある単元では答えがわかっている。でも、解き方がわからない、説明がわからないとい
うところで燃えさせるのが一つの手法かな、なんていうふう思っています。そういった内容で、啓林
館というのは理屈っぽいという世間のうわさはあるけれども、ちょっと、そこがひっかかったのです。

○会長 では、ほかにはよろしいですか。

〔発言する者なし〕

○会長 それでは、算数につきましては、啓林館の教科書を選定するというところでよろしいでしょ
うか。挙手をお願いします。

〔挙手全員〕

○会長 ありがとうございます。算数につきましては、啓林館の教科書を選定するというところで決
めさせていただきます。ありがとうございます。

○会長 それでは、道徳にかかわりまして調査研究委員長のほうから発表をお願いいたします。よろ
しくをお願いします。

○道徳科調査研究委員長 よろしくをお願いします。

我々の調査委員会のほうでは、一番大事にしたいことは、子供にとってこの道徳の教科書はどんな

のか、教師にとってどうなのか、道徳の狙いにとってどうなのかということで考えました。教科書によっては、こちらの方、私どもでは東京書籍ということで考えて選定をさせていただきました。さまざまな教科書があるわけですが、どの教科書も大変素晴らしいところがあります。ただ、最初のところ、ほかの教科書のところではノートがついているもの、こういうものもあります。ただ、ノートがついているものを見ますと、もう発問、子供たちがこのところで発問をするときの発問が全て書いてありまして、教師にとっては自由度がない。これで発問をしなくてはいけないという部分もあります。そこら辺の観点から、調査委員の方では、やはり今まで「わたしたちの道」を長野県では使ってきましたが、それを大事にしながら、教師が資料を読んで、そこで教師が狙いにそっていろんな発問を考えていくということも大事にしたい。その発問の自由度ということを大事にしたいと考えてきました。

そこで、幾つか残ったところで、最終的には学研、それと光村、東京書籍、この3つのところが残ってきました。その中で、それぞれどこも特徴があって素晴らしいのですが、我々一番考えたところでは東京書籍です。この東京書籍のところは、まず発問のところですが、発問はシンプルです。ここに2つあります。ある教科書のところには3つ、4つ入っているところもあります。でも我々は、やはりここを大事にしながらも、自分たちで発問を、ここで本当に子供の実態にとってこれがいいのかどうか、そこのところを考えることが必要かなと。これですぐにこの発問で授業を行うのではなくて、やはり自由度があってというところは大事にしたいなど。

それと、2点目ですが、ここにも書いてあるのですが、シンプルということを考えています。ぱっと見たときに、一つ、この題名があるところに一文だけきょうの、ここに書いてあるのですが、ほかのところを見ると、ここにもぎっしり書いたり、ヒントになるようなことを書いたり、ここでもっと狙いに迫ったようなものが入っていたりすると、子供たちが授業をするときに、やはりこれは資料のお話であって、そこから考え、議論する道徳ということなので、話し合いにつなげていく。ただ、ここでごちゃごちゃ、ごちゃごちゃがあると、そこのところで子供たちがすっきりなくて、例えば読んでいる間にこっちを見たりとか、こっちを読んだりとかということに行ってしまうのかなということで、シンプルさを考えています。そこがまず我々が考えたものです。

それと、ここに幾つか書いてありますけれども、途中、途中のところ、例えば問題を見つけて考える、こういうものが入っていたり、やり遂げた、人と出会う、ふれあう、少しこのところは子供たちの思いを考える、思ったことを書いたり発表したりという場がちりばめられています。さらに、活動、そこのところに書いてありますけれども、活動型教材ということで、大きな事故を呼ぶヒヤリハットというところでは、こういうような実際に登校の中でのことで冷やりするところはどこかなということで、こういうような絵を使ったりしています。ここにはありませんけれども、これは5年生ですが、6年生では「星野君の二塁打」というものを文章から漫画のようにして、特別支援の配慮とかもしています。

あと、ユニバーサルデザインの取り組みということで、行間が少しあけてあります。ちょっと見やすいという部分があります。それと、手書きの文字に近づけるために、教科書体の少し太字であるということで、これも見やすくなっています。

評価なのですけれども、評価については、この教科書を使いながら別の、例えば学習プリントとか学習ノートというのを使いながら、ただこの学習の振り返りというのが後ろのほうにあります。これは自分で一つ一つのところで自分でどうだったかなと簡単に評価できます。そして、最後のところですけれども、ここもそうですけれども、毎時間後はそれぞれ学習カードへ書くのですけれども、学期ごとに学習したまとめも書くことができるようになっております。3学期分あります。ここも子供たちにとってはそんなに負担にはならないのかなというふうに思っております。やはり資料のところにはごちゃごちゃ、ごちゃごちゃ書いていなくてシンプルなので、最後のところで「つながる・広がる」といって資料からもとにつながっていく、他教科につながるような写真とか文とか、そういうものが後ろのほうについています。ですので、授業をやる中で、ちょっとごちゃごちゃという感じではなくて、やはりそのところ、授業の中で話してそのところにつなげて、授業の最後に考えたりとかをできるようになっております。

私たちのところでは、やはり現代的な課題ということも大事にしたいということで、それも調べましたら、例えばこちらのほうですけれども、インターネットとか、ここにはちょっとありませんが、オリンピックとかパラリンピック、そういうようなもの、もちろん人権、いじめも入っていますし、よく考えていろんなジャンルで現代的な課題も考えられているかなということがあります。私たちは、やっぱり発問をすごく教師が考えて、自由度があるということで考えていきたいと思っています。

学研さんのところなのですけれども、最後はこの3つで迷ったところがかなり議論になりました。学研のほうですけれども、これも東京書籍と似ていまして、かなりシンプルであります。ただ、大きさが先生方が扱っていて、例えば1年生も机に置くと、机のほとんどを占めてしまって、なかなか学研さんもいいのですが、その部分が厳しいかな、開くともうほとんど机いっぱいになってしまうというところもありますので、そのこともありました。

光村さんの方ですけれども、これもすばらしい教科書なのですけれども、やはり何がすばらしいかという絵とか写真はすばらしいです。ただ、発問がこここのところで多かったり、いろんなものがちょっと入ってきたり、文章が少し国語的な感じで長いということもあります。ただ、よさもすごいですので、そのところでもありますけれども、やはりこちらのほう、今まで使ってきた「わたしたちの道」、そのところも踏まえて併用できたり、そこら辺のところを大事に、教師が発問を考えていくということが考えていかれるかなということで、こちらのほうを調査委員会の中では選定をさせていただきます。

以上です。

○会長 ありがとうございます。小学校は今も、東京書籍ですか。

○道徳科調査研究委員長　そうです。

○会長　多分使ってみていただいて、それなりの感触を調査委員の先生たちも持っているということ
でいいのかな。

○道徳科調査研究委員長　そうですね。調査委員の先生方と、あとちょっと聞いていただいた感じでは東京書籍がよいのではということです。

○会長　わかりました。私の方からちょっと1つ質問があるのですが、「I 調査表」2番の(6)、それから3番の(4)、まる印この辺は何か意図が。

○道徳科調査研究委員長　このところですが、1つマイナス点を言うと、やはり絵が少し古い部分もあります。例えばこういうような絵ですが、特色があるといえばあるのですが、その部分で、例えば光村さんの方は絵の方とか写真をふんだんに、こういう写真を入れています。このところは光村さんもよいと思います。ですが絵も大事なのですが、やはり文章のこの中から話し合いをしていくということでちょっと考えています。ただ、後ろのほうの資料については、とても大変美しい写真とか絵は入っていますので、そここのところが(6)のところ、ほかのところと比べると写真ということに関する少し写真の大きさとか、そこら辺のところ、ほかと比べればということでもあります。

それぞれの絵も毎回全部同じような絵ではなくて、それぞれ絵を描いた方がいろんな方を取り入れていますので、味わいはあります。子供に合った、いろんな現代風のこういうものもありますけれども、そんな感じです。

○会長　いかがでしょうか。

○委員　教師サイドの発問の自由度が高いとおっしゃっていましたが、その教科書の中に中心発問らしいものが書かれてはいるのですよね。

○道徳科調査研究委員長　はい。一応東書の方は2つあります。1つは、この文章の中、例えば登場人物とか、この資料に寄せた内容の発問。それともう一つの方は、自分に返すような質問というものがあります。例えばこの「コースチャぼうやを救え」というところでは、1つ目の質問は、コースチャぼうやを救うために多くの人々が協力したのはどんな思いからでしょうか。資料の中のものから考えていく。そして、もう一つは、あなたは自分や他人の生命を大切にしていますか。それはどんなことですかという、今度は自分に返すものなのですが、ただ我々も授業をする中で、この発問が必ずしもいいとは思わない部分が出てきます。授業の中でやはり読み込んでいくと、この子たちにはこれはやっぱり、この狙いに行くには、やはりこっちの発問がいいのかなといったときに、自由度があるということもあります。ここも我々も先生方に聞いたのですが、やはりこのままで授業をやっているって、いいなという発問もあれば、ううん、これはというのも実際にはやっぱりあります。

○委員　それに関連してだけれども、実は中心発問というのを教師がある程度イメージして、資料を扱った後、ばちっと出すのでしょうか。それは子供の発想からは離れてしまうのだよね。だから、今お

っしゃった中で、この発問はいいけれども、これはだめだなというふうに取り捨選択するという教師の力量はうんと大事だと思うのです。子供が背負っているものとか考え、価値観をそこで出す中で、教師が交通整理をしていき、それで中心発問に子供の言葉を使って次第に近づけていくと、これが理想の道徳だと思っています。そういった意味で、他社は中心発問をごろごろ、ごろごろ出してしまうというのは、やっぱりお説教道徳に近くなってしまうのです。その点で東書が選ばれたという視点はいいと思います。

○道徳科調査研究委員長 ありがとうございます。

○会長 どうも授業参観でちょっと道徳なんかを見せてもらったときに、ややもすれば読み物を追いかけているような感じがして、35時間こなすだけで精いっぱいという、授業から担任の悲鳴が聞こえてくるような、今のようなお話につながるような、まさに子供たちにどうのことを考えて、そこから自分の生き方にどうやってつなげるかという、そういう道徳の持つ本当に道徳的価値というか、本質的な価値にやっぱり迫るかということがこれからの道徳はどうあるべきか問われている。なかなか教科書があるがゆえに、非常に教科書を流しているというところとちょっと言葉がきつ過ぎるかな。そういうこともないわけではない。ですので、皆さんぜひ、調査委員の皆さんで話し合った部分を今後またいろんな場面で、広げていただけるとうんとありがたいなということをずっと思っています。

○委員 2番の(2)にかかわるところなのですが、東書のほうで「つながる・広がる」の部分のところは、さっきずっとご紹介してくださった写真の部分なのですが、他教科の関連だとか、巻末の付録できれいな実生活と関連した写真があるから、いわゆる興味・関心、意欲を喚起して道徳的価値の追求に結びつく工夫がされているという評価をされているのだけれども、道徳の時間というのは補充、深化、統合する時間なので、ここの時間から外に広がるのではなくて、それぞれの教科や領域で学んできたことを、そこでは十分押さえ切れなかったものをこの時間で押さえるというか、価値として納得する、自覚させるというのが私は道徳の時間だというふうに捉えてきていたし、多分学習指導要領、そこは変わっていないと思うのです。

そうすると、私はこの観点、関心、意欲というのは他教科に広がるような美しい写真や何かがあるから広がるのですよという発想は違うのではないかという気がするのですが、むしろ東書のいいところを言うのであるのだとすれば、東書の発問が1個に絞られているということは中心的価値にかかわる発問がしっかり据えられているから、そこに向かって追究できるところがいいのだという捉え方をしていかないと、私は2番の(2)の観点と、それから認めた理由というのがちょっと道徳の学習指導要領とは違うのではないかなと思うのですけれども。

○道徳科調査研究委員長 ありがとうございます。おっしゃるとおりです。

○委員 一つに絞れといっても、光村さんあたりはいろんなところが多分出されているので、いろんなところを網羅的にいつてしまっているから、ある意味ここでいうような道徳的価値の追求に結びつく工夫という部分だとちょっと焦点ぼけですよという言い方のほうが。

○委員 子供たちが書き込むページですが、それが東書が一番多かったのですか。教科書の一番後ろに書き込むところがあるとかという紹介がありましたね。それはほかの会社はそういうのはないのですか。

○道徳科調査研究委員長 ここのところを見ると、最後のところについているのは、これしかなかったり、こちらの方も、これは日記のような形になっているということで、さほど用意されておりません。こちらはノートがあるのでついていませんが、光村の方はところどころにこういう形が入っています。

○委員 多分それは道徳の評価にかかわることを意識していると思うのです。そのところは二重丸、丸、三角で評価しないでしょう。記述式で評価しているわけなので、それを担任が参考にして評価するように設定されているものではないかというふうに思ったのです。ただ、1時間、1時間が子供に書かせる、別刷りのプリントとか、そういうのを集めていけばそれで済むことなのだけれども、多分東書はそれを意図したかなという予想です。

○道徳科調査研究委員長 調査委員の中でもそういう話が出て、東書は多分これは学習ノートとか別な形で自分たちで用意したりとか、学習ファイル、それをプリントとかでためていって、そのところでやっていくということを多分意図してノートもつけなかったし、その途中、途中で中途半端に評価していくということはしていなかったのかなというふうに思っております。

○会長 よろしいですか。ありがとうございました。

それでは、道徳にかかわりましては、東京書籍の教科書を選定するというところでよろしいでしょうか。挙手をお願いいたします。

〔挙手全員〕

○会長 全員の皆さんに挙手をいただきました。

それでは、道徳は東京書籍の教科書ということで選定させていただきます。ご苦労さまでございました。

○会長 ご苦労さまです。それでは、続いて中学校の道徳以外の教科書の選定について、事務局の方からご説明をいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

○事務局 それでは、事務局から令和2年度に使用する中学校教科用図書の選定について説明をさせていただきます。

中学校は、特別な教科道徳以外の教科書について、本年度新たに採択を行うこととなります。平成30年度に新たな図書の申請がなかったため、基本的に平成26年度検定合格図書の中から採択を行います。

最初に、中学校「道徳以外の教科用図書」という資料をご覧ください。表紙をめくっていただきま

すと、現在中学校で使用している教科書の一覧表を記載してあります。使用されている教科書について、平成27年度上小地区教科用図書採択研究協議会中学校用図書調査研究結果報告書をもとに説明をしたいと思います。

最初に、国語ですけれども、検定に合格した出版社は5社あり、その中から光村図書出版の「国語」が選定されています。

次に、書写は、5社の中から同じく光村図書出版の「中学書写」になっております。

社会地理的分野は、4社の中から東京書籍の「新編 新しい社会 地理」になっています。

社会歴史的分野は、8社の中から帝国書院の「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」です。

社会公民的分野は、7社の中から東京書籍の「新編 新しい社会 公民」です。

地図は、2社の中から帝国書院の「中学校社会科地図」。

数学は、7社の中から新興出版社啓林館の「未来へひろがる数学」。

理科は、5社の中から東京書籍の「新編 新しい科学」。

音楽は、2社の中から教育芸術社の「中学生の音楽」。

器楽は、2社の中から教育芸術社の「中学生の器楽」。

美術は、3社の中から日本文教出版の「美術」。

保健体育は、4社の中から東京書籍の「新編 新しい保健体育」。

技術・家庭科の技術分野は、3社の中から東京書籍の「新編 新しい技術・家庭 技術分野」。

技術・家庭科の家庭分野は、3社の中から東京書籍の「新編 新しい技術・家庭 家庭分野」。

英語は、6社の中から東京書籍の「NEW HORIZON English Course」。

中学校の教科書採択は、学習指導要領の改訂に伴い来年度も行われるため、今年度採択した教科書は1年限りの使用になります。

事務局といたしましては、平成27年度の上小地区教科用図書採択研究協議会の選定結果を尊重し、現在使用している教科書を令和2年度の選定図書としたい考えです。

理由といたしまして、平成30年度に新たな検定図書の申請がなく、平成27年度に選定したときと同じ教科書の中から採択を行うこととなること。平成27年度の協議会において、厳正に選定が行われていること。選定された教科書は、現在までに大幅な内容変更がなく、使用中でも特段不都合が生じていないこと。来年度は学習指導要領の改訂に伴う中学校の教科用図書の選定があることということで、このようにしております。

以上、事務局から説明をいたしました。よろしく申し上げます。

○会長 ありがとうございました。

それでは、ただいまご説明いただきました中学校の道徳以外の教科書につきましてご協議をいただき、選定してまいりたいと思いますが、何かご意見あるいはご質問ございますでしょうか。

[発言する者なし]

○会長 よろしいですか。

中学校の道徳以外の教科書につきましては、平成27年度に協議会で選定された教科書を引き続き選定するということがよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○会長 それでは、賛成をいただいたということで確認させていただきました。

令和2年度から使用する中学校の道徳以外の教科書は、平成27年度に協議会で選定された教科書を引き続き選定をさせていただくということで、よろしくをお願いします。

皆様のご協力により、無事小学校用教科書と中学校の道徳以外の教科書について議事が終了いたしました。ありがとうございました。

以上で上小地区において令和2年度から使用する小学校教科書及び中学校道徳以外の教科書についての選定が終了いたしました。